

表12 2006年度 都城発掘調査部(平城地区) 発掘調査一覧

調査次数	調査地区	遺 跡	調査期間	面積	調査地	担当者	調査要因	掲載頁
401次	6 ALR-F・6 ALE-D	平城宮東院地区	2006.4.4~4.18,	1711m <sup>2</sup>	奈良市佐紀町	大林 潤 和田一之輔	学術調査	
			2006.10.2~12.27					
402次	6 AGF-O	平城京右京三条一坊十坪	2006.4.12~4.14	6m <sup>2</sup>	奈良市二条大路南	今井晃樹	住宅建設	
403次	6 ABE-K	平城宮内裏北方	2006.4.24~4.26	12m <sup>2</sup>	奈良市佐紀町	神野 恵	住宅建設	
404次	6 BSD-I・H	西大寺食堂院	2006.5.24~8.30	728m <sup>2</sup>	奈良市西大寺本町	大林 潤	建物建設	
405次	6 AFC-H	平城京左京一条二坊九坪	2006.5.15~5.22	8.5m <sup>2</sup>	奈良市法華寺町	神野 恵	住宅建設	
406次	6 AAE-M-N・6 AAF-K・L	平城宮東方官衙地区	2006.12.20~2007.5.11	1296m <sup>2</sup>	奈良市佐紀町	栗野 隆	学術調査	
407次	6 BGN-C	旧大乘院庭園	2006.7.3~8.9	144m <sup>2</sup>	奈良市高畠町	金井 健	史跡整備	
408次	6 AAN-C	平城宮内裏北方	2006.7.6~7.10	18m <sup>2</sup>	奈良市佐紀町	林 正憲	住宅建設	
409次	6 BSD-P	西大寺薬師金堂	2006.7.24~8.3	32m <sup>2</sup>	奈良市小坊町	林 正憲	庫裏改築	
410次	6 BSD-I・6 AGS-A	西大寺食堂院・右京北辺	2006.7.31~10.16	1111m <sup>2</sup>	奈良市西大寺本町	馬場 基	建物建設	
411次	6 ACN-Q	平城宮馬齋北方	2006.8.7~8.9	15m <sup>2</sup>	奈良市佐紀町	金井 健	倉庫増築	
412次	6 BFK-G	法華寺旧境内	2006.8.23~8.31	54m <sup>2</sup>	奈良市法華寺町	林 正憲	住宅建設	
413次	6 AFC-F	平城京左京一条二坊十五坪	2006.9.5~9.11	13.2m <sup>2</sup>	奈良市法華寺町	林 正憲	住宅建設	
414次	6 BFK-H	法華寺旧境内	2006.10.12~10.16	7.5m <sup>2</sup>	奈良市法華寺町	島田敏男	住宅建設	
415次	6 BSD-H	西大寺食堂院	2006.10.24~10.31	61m <sup>2</sup>	奈良市西大寺本町	山本 崇	建物建設	
416次	6 AAN-C	平城宮内裏北方	2006.11.6~11.8	9m <sup>2</sup>	奈良市佐紀町	森川 実	住宅建設	
417次	6 BFO-D	法華寺旧境内	2006.11.13~11.16	9m <sup>2</sup>	奈良市法華寺町	山本 崇	住宅建設	
418次	6 AED-G	興福寺旧境内	2007.2.5~3.12	121.2m <sup>2</sup>	奈良市中筋町	西口壽生	建物建設	
419次	6 BFK-H	法華寺旧境内	2007.3.8~3.16	58.1m <sup>2</sup>	奈良市法華寺町	次山 淳	住宅建設	

表13 2006年度 都城発掘調査部(平城地区) 小規模調査の概要

調査次数	遺 跡	調査の概要
402次	右京三条一坊十坪	建物建設にともなう調査。現地表面より深さ2mまで掘削して終了。遺構は検出されなかった。基本層序は現地表より厚さ1mほどまでは現代の填土、填土の下はガラス片を含む暗灰土と戦前戦後の水田跡、水田下は遺物包含層。瓦片、土器片、須恵器片が少量出土。
403次	平城宮内裏北方	個人住宅の新築に伴う発掘調査。東西2m、南北6mのトレーナーを設定した。現地表面から30cmほどで地山を検出した。奈良時代の土器類が出土したが、明確な遺構は確認できなかった。
405次	左京一条二坊九坪	個人住宅の新築に伴う発掘調査。東西2m、南北4mのトレーナーを設定した。現地表面から約80cm下で遺構面に達し、調査区西より3m間隔で2基、穴を検出した。北方の穴には人頭大の礫が5個並べられており、これらは礫石の根石である可能性が高い。
408次	平城宮内裏北方	個人住宅の建て替えにともなう発掘調査。調査地は市庭古墳周濠内にあたる。南北3m、東西6mの調査区を設定し掘削を開始したところ、地表下約90cmで奈良時代の瓦などを含む整地土を確認した。調査区の南壁沿いでは東西方向の溝を1条確認したが、これは近代のものである。調査区北東隅をさらに掘り下げ、地表下160cmまで掘削したが、水平に積まれた整地土層を確認するにとどまった。周濠底はさらに低い位置に存在していると推定される。
413次	左京一条二坊十五坪	個人住宅の建て替えにともなう発掘調査である。調査地は木取山古墳周濠西側にある。南北2m、東西6mの調査区を設定し掘削を開始したところ、調査区西側では地表下約10cmで地山面を確認した。そして調査区中央に瓦や土器が多く含む南北溝を検出し、その東側では奈良時代の遺物を含む整地面を確認した。整地は周濠を埋め立てる際のものと考えられ、地山との境界が周濠肩と考えられる。
416次	平城宮内裏北方 (市庭古墳前方部)	市庭古墳前方部における発掘調査。個人住宅の建設にともなう事前調査。調査区は南北6.0m、東西1.5m。白色砂礫層(地表下1.2m)まで掘り下げたものの、浅い落ち込みを確認したにとどまり、平城宮ないしは市庭古墳の関連遺構は確認できなかった。
418次	興福寺旧境内	団体事務所新築に伴う事前調査。寺域東北部の果園推定地に南北20.2m、東西6mの調査区を設定した。現地表下約1.2mで、石組溝を雨落溝として共有し、一部に排水施設を備えた中世の礫石建物2棟分を検出。近世には漆痕跡を持つ埋甕が多数ある。平安時代の遺物はあるが古代の遺構は不明。
419次	法華寺旧境内	住宅建設にともなう事前調査。調査地は東西両塔推定地のほぼ中央に位置する。土壤改良の範囲にあわせ南北9.6m東西約6mの調査区を設定した。調査区中央に平面「丁」状の段があり、この段にそって溝がめぐる。周溝西側上段では東西石組溝、礫石状の塊石2基を検出した。また、周溝南北部分には上段から丸瓦・土管混用(中世)の排水暗渠施設が設けられていた。

表14 2006年度 都城発掘調査部(平城地区) 現場班編成 ※総担当者

考古第一	考古第二	考古第三	遺 構	史 料
春 小池伸彦	神野 恵	今井晃樹	※大林 潤	渡辺晃宏
夏 ※和田一之輔	森川 実	林 正憲	金井 健	※馬場 基
秋 次山 淳	西口壽生	深澤芳樹	島田敏男	山本 崇
冬			※栗野 隆	浅野啓介
総括：部長 川越俊一			写真担当：牛嶋 茂、中村一郎	